

## 4. ドイツ中堅機械メーカーの競争力

### イ. 調査の目的

リーマンショックによって引き起こされた米国の金融危機は、ギリシャの債務粉飾の発覚、スペイン、アイルランドの不動産バブルなどにより欧州にも波及し、ユーロ危機をもたらした。しかし、重債務国への融資、金融支援のための制度の整備などにより、危機を回避し、ここに至り経済も徐々に回復傾向にきたように見受けられる。

ユーロ経済圏の景気回復局面で注目を浴びたのが、ドイツ経済の強さである。成長率、財政赤字比率、失業率など EU 諸国の中では良好な数字を示している。また輸出主導で回復を果たしたドイツ経済で注目されているのが、自動車産業とニッチな資本財市場を得意とする中堅機械メーカーの強さである。

中堅機械メーカーの強さは伝統的なものである一方、輸出依存度が高いゆえ、世界金融財政危機のより輸出が大幅に落ち込むなど、大きな打撃を受けた。しかし、賃金の上昇を抑制し、操短補助金などを使うことによりベテランの専門労働者の解雇を回避した結果、世界経済が回復するにつれ、再び強みを発揮している。

このドイツ中堅機械メーカーの強みを探るのが本調査の目的であった。まずドイツ経済の好調ぶりを経済指標で、次に好調な輸出を統計で確認することとした。中堅機械メーカーの強さについては、先駆的な研究を紹介し機械産業部門でのドイツの強さを明らかにしようと試みた。また、機械産業企業が多く含まれるドイツの目立たない世界的な中堅企業の経営戦力、経営の特徴などを紹介することにより、特に中堅企業の強さの秘密に迫ろうとした。

また、専門分野に特化したドイツ中堅機械メーカーの熟練労働者を育成するプロセスとして、評価の高いドイツの職業教育制度についても詳述することとした。近年のドイツの構造改革「アジェンダ 2010」のなかで、特に重要な労働市場改革等についてもふれることとする。

### ロ. 調査結果の概要

#### 第1章 見直されるドイツ経済

ユーロ危機からの回復局面において、ドイツ経済の好調さが注目されている。フォーリンアフェアーズ誌や英、エコノミスト誌もドイツ経済の復活を報じており、第2次世界大戦後の「経済の奇跡」にならって「新・経済の奇跡」という言葉も使われている。経済指標を見てみると、ユーロ圏の中では高い成長を維持しているし、貿易収支の黒字幅も拡大している。累積債務はマーストリヒト基準の60%をまだ大幅に上回っているものの、財政赤字は基準の3%を下回っている。失業率も低下し、特に若年失業率は南欧諸国と比較するとその違いが際立っている。

## 第2章 統計にみるドイツの輸出競争力

貿易統計からドイツの輸出を見ると、地域別には EU 向けが約 6 割、ユーロ圏向けが約 4 割を占めるが、近年これら地域向けはやや比率が落ちており、それを補うような形で新興国向けが伸びている。2007 年から 2012 年にかけて、中国向け輸出は 2.2 倍の伸び、BRICs 向け全体でも 75% 増を記録している。品目別では自動車、機械、化学、電気などが主要輸出品である。

ドイツの輸出の特徴をつかむため日米と比較すると、日本との比較では両国とも自動車および自動車部品の輸出がトップに来るが、それ以外はドイツが医療機器、機械類などが上位に来る。日本の場合は集積回路や半導体デバイスなど電子部品が多いのが特徴である、米国の場合は航空機や大豆などの品目が目立つ。

機械類に限ると、ドイツ機械プラント連盟の資料によると印刷製紙機械、計測試験機器、繊維機械など輸出世界シェアで 20% を超える部門がある。

## 第3章 ドイツ機械産業の競争力

ドイツ産業の強みをさぐるため、まず国際比較からドイツ産業の特徴を分析した文献を参照した。マイケル・ポーターはその著書『国の競争優位』で、ドイツの競争力の要因を、特定分野への差別化戦略、技術の重視、充実した職業教育、それによりもたらされる質の高い専門労働者、大学と企業の協力などに求めている。また、ピーター・ホール等による『資本主義の多様性』では、ドイツを自由な市場経済と対比されるコーディネートされた市場経済と位置付け、漸進的なイノベーションにより工作機械や工場設備のような資本財、耐久消費財に強みを発揮するとしている。

ドイツではまた、狭い専門分野に特化した、競争力のある中堅企業が多く、ドイツの輸出にもこれらの企業が貢献している。これらを分析した『隠されたチャンピオン企業』を紹介した。

## 第4章 ドイツの職業教育システムの基本的枠組みと今日の実態

「職業育成訓練」と呼ばれる学校教育に組み込まれた若年者向け職業訓練を中心としたドイツの職業訓練は、若年失業者の少なさ、学校教育から職業生活への円滑な移行、雇用労働者の技術水準を担保するものとして、国際的に高い評価を受けてきた。その評価は、今般の経済危機を経て、さらに高まっている。

本章では、最新データのうち、機械産業および中堅中小企業に可能な限り焦点を当てながら、ドイツ職業訓練の基本的枠組みと今日の実態について、検討を行った。

## 第5章 ドイツの労働市場改革と雇用調整

ドイツでは、2005 年からハartz 改革により失業者の就労を促進する本格的な労働市場改革が始まった。その結果、失業者数が減少し賃金コストが相対的に低下して、ドイツ製造業の国際競争力が高まった。しかし一方では、労働市場改革は、非正規雇用の増加と低賃金化という副作用をもたらした。このため 2013 年 11 月に発足した大連立政権は全国一律の最低賃金制の導入を決めたが、これが今後のドイツ製造業の国際

競争力にどのような影響を与えるのかが注目される。

(この報告書は、競輪の補助金により作成した。)